

はじめに

水は自然環境にとって必須の構成要素であり、循環している資源である。気候変動や人為汚染などによるわずかな変化でも水資源全体と自然環境に影響する。水資源は脆弱な資源である。それゆえ、水供給と排出・処理には高度で頑健な社会システムが必要となる。わが国は社会基盤整備の長い歴史の中で水に関する優れたシステムを構築してきた。しかし、低炭素化社会システムの構築は、21世紀の先進諸国の優先的課題であり、中でもわが国は、温室効果ガス削減への取組において、リーダーシップを取るべき立場にある。地球環境保全の視点ならびに、持続可能な社会の構築へ向けて、この高度で頑健な水循環システムの中に低炭素化の視点を組み込まなければならない。

この度の、「首都圏における低炭素化を目標とした水循環システム実証モデル事業」において検討された内容は、広く流域的視点に立って現状の課題を捉え、可能な限り自然エネルギーを活用する考察、あるいはシステムの集約手法の解析、空間的に多様な形態で存在する水資源の活用の考察などから構成されている。首都圏の水供給に係る水資源循環の再構築の試みであり、非常に意義深い成果である。この成果が今後の水資源・水供給政策の議論に生かされることを期待したい。

「首都圏水循環検討委員会」において、各委員のさまざまな視点から関連にご議論頂いた。委員各位ならびに、斬新な成果を生み出した各分科会の作業に携わった方々に、心より御礼を申し上げる次第である。

平成 22 年 3 月

首都圏水循環検討委員会 委員長
大垣 眞一郎